

I. 巻頭言

『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2012』を刊行いたします。

東北大学埋蔵文化財調査室は、施設整備などに先立つ、構内遺跡の記録保存のための調査と、それに関連する業務を担当する、東北大学の特定事業組織です。埋蔵文化財調査室では、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』と『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』という、二種類の報告書を刊行しています。

施設整備などに伴う記録保存のための本調査については、その発掘調査報告書を、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』（以下『調査報告』と略記）というシリーズ名で、各調査ごと刊行しています。『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』（以下『年次報告』と略記）は、埋蔵文化財調査室の事業概要を迅速に報告するという目的のために、毎年度ごとに報告しています。

本年次報告では、埋蔵文化財調査室が2012年度に実施した埋蔵文化財調査の概要、および調査室が実施したその他の事業について概要をとりまとめて報告いたします。2012年度は、2011年3月11日に発生した東日本大震災に関わる、震災復旧事業が本格化しました。青葉山北地区と富沢地区では、震災復旧工事に伴う記録保存のための本調査を実施しました。これらの地区に加えて、川内地区や、牡鹿郡女川町の小乗浜地区でも、震災復旧事業に伴う立会調査を実施しています。

さらに、川内北地区で課外活動施設新築計画が急遽具体化したため、これに先立つ調査も行うこととなりました。これらの調査を先行して実施する必要があったため、2011年度から行っている地下鉄東西線川内駅前整備に伴う調査は、4・5月に一部の作業を行った後、中断することとなりました。

東日本大震災以降の埋蔵文化財調査室の業務は、これまでに経験したことのない業務量をこなす必要にせまられております。幸い、学内外の関係機関や関係者の多大なご協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼申しあげるとともに、今後もご支援とご協力をお願いいたします。

埋蔵文化財調査室長 阿子島 香